京城新聞

安言妄評（九）　栗嶽生

▲伊藤公及統監府側にては英國のクローマー卿が埃及の保護統治に成功したる二十年の歲月を要したる迚能く引例せらるゝが、卉は全くクローマー卿が赴任當事の埃及と英國の關係は、伊藤公が統監として來れる韓國と日本との關係とは頗る趣を異にせることを度外視するものに候、クローマー卿が英國の總領事兼外交事務官として赴任したる當時は、英國の埃及に對する保護權は公然條約を以て定められたるにあらず、從て列國も英國の保護權を公然認めたるに非ず、然るにクローマー卿は拮据經營以て列國をして之を公認せしめたり、其間の苦辛慘憺大に察すべきもの有之候、之に反し伊藤公の[illegible]、列國は既に日本の保護權を承認し、公は日本に於ける第一流の政治家にして、聲望隆々到底クローマー卿の比に非ず、公のなさんと欲する處は何人と雖も、之を遮るものなし、眞に公が意の儘になし得べかりしなり、殊に日韓在來の關系は英埃の關係と同じからず、日韓の關係は二千有餘年來の關係なり、之が爲には清露との二大戰爭をなしたるのみならず神皇の役より文祿の役等ありて、數萬の壯丁を殺したり、今日の關係に迄進みたるには、此等壯丁の熱血が濺がれ居申候、決して英國と埃及との關係とは同一に論ず可らざるものに候、斯る關係ある上に、日露戰爭當時京城駐任の露國全權公使は日本政府の命令の下に退去せられたり、既に此際韓國には全く獨立の力なく、國際法上より見ても獨立したる國家と認むる能はざりき、日本にして此際野心あらば併合するも隨意なりき、又ポーツマス條約にも、日英同盟條約にも韓國に就ては日本の優越權を認むるのみにて、獨立扶植或は保全の條項なし斯の如き形勢にて日本の保護國となしたるなれば、統監の指導は意の儘なり、決してクローマー卿の埃及に於けると同一に論ずべきものに無之候、否其差は月鼈も啻ならずと存候、若し夫れクローマー卿をして伊藤公と位地を換へしめば如何、三年の歲月は決して短しと云ふ可らず、二千餘年來國民總擧りの問題列國にも餘り例の少き關係に候、然るにクローマー卿が二十年の歲月を要したりとて澄し居らるゝは、國民の側よりすれば冷淡なるが如く、呑氣なるが如く、腑甲斐なきが如くに思はるゝも無理ならずと存候、伊藤公よりすれば三年なれども、國民の側よりすれば少くとも花房公使時代よりせざる可らず候、之れ明治政府の對韓政策としては花房公使を起點とするが相當に候、爾來殆ど三十年に候、伊藤公と●●クローマー卿との比較は斯の如し、さらば●●彼のラチッサンが安南統治に於ける効績と比較せば如何、ラチッサンは如何にして安南統治に成功せしやを暫く說かしめよ、

●七月の韓國氣候

本月の氣壓は東海岸に高く北西部に低く其差僅に二粍なりし風向は二三の地方を除く外南方を占め最高氣温は三十五度に達し最低は過半十五度內外なりし降水量は京城附近に最多にして五百粍を超へ釜山元山之に次ぎ二百五十粍內外に達し北東部は最少なりしと雖も尙百粍餘に及べり蒸發量は黃海に面したる地方に多く所により百五十粍を超へたれ共東海岸は少くして城津の如きは百粍に達せざりし是等を既往四ヶ年のものに比すれば氣壓は極北部及南西部に稍や低く氣温は全國を通して低くして元山地方は二度に達し降水量は過半寡少なれども西岸の中部以南過多にして就中仁川附近は約三百粍の超過に及べり蒸發量は各地に少かりしが殊に[illegible]各要素に就きに略敍すれば次の如し

●氣壓● 平均氣壓は東海岸の七百五十五粍强より極北西部の七百五十四粍弱の間にありて前月に比すれば約一粍低し

●氣温● 平均氣温は大邱の二十三度七より城津の十八九度九の間にありて二十度以下なりしは城津のみなり最高の極は大邱及元山の三十五度〇より城津の二十九度〇最低の極は龍岩浦の十五度六より城津の十三度〇に及び之等を前月に比すれば概して三度の上昇を呈せり而して較差の最大なりしは元山にして二十一度七なりとす

●降水量● 京城の五百三十粍三より城津の百十六粍八の間にありて前月に比すれば南沿岸及元山地方を除くの外多大にして北西部は百粍餘仁川附近は約四百粍の過剩を呈す

●蒸發量● 平壤の百七十二粍より城津の九十四粍九の間にありて前月に比すれば各地共少く最も著しきは龍岩浦の四十三粍及釜山の三十五粍七

●風● 風位は過半南方を占め平均速度は西岸の六米强より內陸地方の二米强の間にありて最大風速度は二十九日龍岩浦の二十六米〇にして二十二日仁川の二十三米二之に次げり而して暴風日數は既往四ヶ年のものに比すれば南部を除くの外は各地共多くして仁川（十六日）の十日多きものを以て最も著しとす而して之を前月に比すれば仁川のみは同樣にして極北東部は少く其他に多し

●天氣● 降水日數は前月に比し大邱を除くの外は概ね多く京城は十五日（前月より五日多し）に及べり快晴日數は前月に比すれば北部二三の地方には多かりしも其他には少く最多は平壤の三日にして最少は釜山の一日大邱及木浦の零日なりし而して之等を既往四ヶ年のものに比すれば雨天日數は龍岩浦及元山に稍々少く其他に多く木浦及城津は五日に及べり快晴日數は龍岩浦及城津は同數なれども其他に少く仁川より釜山に至る沿岸は三日に達せり

●附記● 本月は雨季なるにも拘はらず上旬及中旬に於ては全國を通じて晴天繼續せしが中旬末より俄に雨季の狀態を呈し時に晴天の日ありしと雖も概ね陰湛多雨となり平安南道より全羅南道に至る西部七道は平年に比し多量の降雨ありて殊に京畿道は殆んど連日の雨天にして且强雨屢々來り仁川の如きは開國四百九十六年氣象觀測創始以來未曾有のものなりし今既往二十二年間に於ける一ケ月及一日中の最多量と本年のものと比較すれば次の如し

起期	月量（粍）
光武元年七月	四五二
本年七月	四五四
本年の方多し　超	二

起期	日量
光武元年七月廿三日	一〇八
本年七月廿一日	一五二
本年の方多し　超	四四

（八）　川合柳葉

山川孤舟大如ヶ原に身を縮めて、息を凝して何も男女の好ん様を見て居ると、兩人は岸に立つて凄じい勢を以て、滔々と流れつゝある宇治川の急流に對して、暫し水面を眺めて居つたが、男は決心した如き調子で『サアお君、西方を拜むで、後れを取らないやうに緊乎と抱き合つて飛び込まう、覺悟は宜いか。』『あい。』と、哀な聲で答へて西に向つて手を合すのであつた、男と同じやうに口に何やら唱ねつゝ西に向つて掌を合せた。此の刹那、此の瞬間、女は何と思つたか渾身の力量を[illegible]腕に籠めて、一心に唱名しつゝある男の背後から、ズドンとばかり突倒した。不意を喰つた男は何條堪るべき、眞逆倒に宇治の急流に陷つて、其まゝ生死も知れずなつて了つた。有繋大惡黨の山川孤舟も、この大膽不敵なる毒婦の振擧には心窃に舌を卷き、先刻より兩人が投身する時は、躍り出て救はんと浮腰になつて待構へた勢も何處へやら呆氣に取られながら猶も樣子を眺めて居ると、女は敢て狼狽する容子もなく、水烟の高く上つた川の中を覗き込み、四邊を憚る低調子、

『モシ長さん、本當にお前さんは御念の入つた御心良だね、此のお君さんに一緒に情死して下れんかなんて、あんまり目先が見えなさすぎる、お前さんのやうな男でも、伏見で名高い近江屋の若旦那と知つたればこそ、可厭々々ながらも我慢をして、甘い文句で鼻毛を讀むだは、讀つた金子が欲しさの慾の上、それに何ぞや僅か千か二千の端金を浪費して、親から掛當世間に不義理揚句の果が駄の弱い情死沙汰、憚りながら此のお君さんは、お前さんのやうな意氣地なしに、お交合で棄てるやうな那樣安つぽイ生命はお生憎と持合せがありませんよ、お前さんは此のお君さんを唯の女と思ふだろう[illegible]それとも知らず嬉笑と笑つた笑顏の中に釣り込むだはお前の不覺さ、どうせ爆う云つたら定めし腹も立つだろうが、惚れた女の優しい手で、突落したのだから、三拜九拜喜んで難有く成佛するがいゝ、それとも殘念無念と思ふなら、古い文句だが化て出るなど取付くなさ、其處はお前の量見次第さ、私はこれからお前さんから捲上げたお金子をもつて、好た情夫でもこしらへて思ふ存分樂むから十萬億土の奈落から、指を咬ねて御覽なさい。』

と、云ひ了つて莞爾と笑ひ、袂の石をガチ／＼と、塵打ち拂ふて悠々と、岸より堤の上に、其まゝ元來た道に急がんとする時、

『モシ、姐さん、些とお待ちなさい。』

不意に背後から呼び留められて、かゝる深夜、かゝる雨の夜、豈夫に人の居るとも思はなかつたお君は、ハッとばかりに度膽を抜れたが、有繋に毒婦の然あらぬ体で、

『お呼びなすつたは私ですか。』

と、振向げば、

『然うさ、四方に人が居なけりや、まあお前さんの事だろうよ。』

此時、今まで雲に隱れて居た月は鮮かに雨人を照した、呼び留めたは云ふまでもない山川孤舟、月の明にお君の顏を見れば、文金に結び上げた綠の髮の艶かに、實にや貴女の令孃とも見ゆる花の容貌、年齢も十九か二十歲ー。

京城新聞

詔勅と暴徒

地方暴徒の鎭定如何は拓殖及商業上に大關係あるを以て余輩は屢々實況を公表せられんことを當局者に迫りたるも、今尙は何等の公表もなく、唯情報のみ大に鎭靜せるが如く言傳へられ、而も時々當局者側より漏さるゝ消息に依るも殆ど鎭定して殘徒の少數が北韓に出沒するに過ぎざるが如し、之を以て在留邦人も稍々安堵し、地方經營を爲さんとするものは、徐ろに其設備に着手しつゝあるもの尠からずと聞く、然れども其一般に至りては當局者が公然其鎭定を發表せざるを以て、尙は不安の念を抱けりと、地方經營者としては實に至當の事なり、殆ど鎭定せるが如く傳はる情報が果して事實ならば、當局者何が故に實況を公然と發表するに躊躇するやとは余輩の疑問とする所なりき、然るに今回暴徒歸順に關する詔勅は喚發せられたり、余輩は此詔勅に接して殆ど寢耳に水の感を起したり、余輩は當局の公表なきを疑問とじたれども、未だ少數の殘徒時々出沒するを以て全滅する迄は或は公表せざるべしと好意に解釋して多少安ずる所ありき、然るに詔勅の喚發を要する程暴徒は跋扈しつゝあるかと思へば何人と雖も吃驚せざるを得ず、果して詔勅を宣する程に尙は地方は騷擾を極め居る乎、今や詔勅に接しては地方の狀態に就き危惧するもの唯夫れ余輩のみならんや、然れども亦一方より考れば、果して詔勅が暴徒の跋扈甚だしきが爲に喚發せられたるものか、將た時々出沒する少數の殘徒をして改悛歸順せしむるの趣意乎、詔勅の喚發を以て一概に之を論斷するは大早計に失すと雖も、大詔降下は決して尋常一樣の事に非ざるなり、余輩が寢耳に水として地方の狀態に不安の念を起すも敢て怪むに足らざるなり。

斯の如く世人をして不安の念を起さしむる所以のものは、當局者が其實況を秘して公表せざるが爲め、疑心は暗鬼を生じ、不安の念を起さしめずとの老婆心は却て不安を增さしむるのみ、當局者は此際宜しく實況を公然發表して地方經營に據る所を知らしむると共に世人を安堵せしむべきなり、之れ吾徒の義務なり、假令些少關係するが如く鎭定に居らざるも、實況を秘するが如きに於ては危惧することなし、當局者は何が故に此見易き道理を閑却して實況の公表に躊躇するや。

吾人は不幸にして今尙暴徒の勢力猖獗ならば、夫れ或は軍隊を增加して殲滅の鋤除を加ふ可し、綏和的討伐は決して暴徒を殲滅せしむる所以に非ず、地方官をして歸順を訓諭せしむるが如きは何等の効果もなからん、之れ暴徒をして已に嚴烈なる討伐のみ、余輩は當局者の討伐が或は緩に失するなきやを懼ふ。

●半年雜記

對星樓山人

言論の勢力と拘束（上）

韓國に於ける新聞紙の發達は最近の事なり韓國に在留せる本邦人は約十萬に對し邦文新聞は大小合して二十、平均五千人に對して一社ある割合なり、如何に其新聞が勢力あり、必要あり、亦活氣あるを推測し得らるゝと同時に、其營業振りの困難なることをも察し得らるべし、實を謂へば統監府の補助を得て發刊し而かも第一流の收入額ある京城日報すら未だ營業に大なる成功を數ふる能はず。

斯る新聞社を經營せるものゝ多數は其志す處ありと雖も、新聞紙の勢力を善用して其名聲及主張を謀るに於ては極めて熱心なるのみならず、餘りに言論勢力が偉大なるために經營者として多大の困難を忍耐さしめ、記者以外の勢力まで擴張せしめ、甚しきは頗る危險なる世路をも冒かして勇進せしむるに至りては、社會は在韓邦字新聞記者の立場と現狀とは深く諒會せざる可らず

外交時代に於ては大小の新聞は、何れも帝國の利害に於て何れも同一の歩調を守り、時として在留民間の黨派的感情を代表する位にして、其言論は自ら規律を守り、甚しき主張の反目無かりしか、日露交戰に及むで各新聞紙は全く帝國の軍事通信を主として其交戰期を終りぬ。次て保護時代に至りて統監府は機關紙を特設し、次第に言論界に異同の色帶を發生し、特に保護政策の上に其主張の異同を見るに至り、民間新聞紙なる文字を見るに至れり、是れ必しも惡しき現象に非ずして言論の異同を見るに至りしは政治の討究、政策の得失を研究し其母國の勢力を擴張する上に貢獻し、參資したること多大なりとす、而して其言論の發達と倶に來れるものは言論の取締也、言論によりて妨害せられたる秩序の回復を期し、所謂新聞紙條例なるものを發布するに至れり、是れ一面に於ては言論の拘束なりと雖も、一面に於ては言論の大なる發達と[illegible]るものなり。

●吊祭料御下賜

隆熙二年十月二日江原道江陵に在勤中麟蹄郡に賊徒五百餘名に遭遇し同巡査數名と共に苦戰中敵彈に胸部を貫かれ名譽の戰死を遂げたる故警部岩元義行氏の遺族岩元ノブに對し日本皇室より吊祭料金千圓懇篤金六千圓合計金七千圓御下賜の御沙汰あり內部より本人へ發送せりと云ふ

●昨日の閣議

昨日は閣議の定日にて開會せしが其の議題の重なるものは內閣大臣官邸建築及び前警視總監丸山氏へ贈與すべき慰勞金に關する件にて前者は約六萬圓の工事後者は曩に附與したる貴田、加藤、野津の三顧問の例に傚ひて決せらるゝ筈なりと云ふ

●皇族會館設立

韓國の各皇族は去月二十日宗正府に於て皇族會議を開き皇族會館を創設することに決し會長に永宣君、李俊鎔氏を副會長に李埈鎔氏を評議員長に[illegible]を撰定したり員には李秉武氏以下十二名を擧げ皇族會館の事業として皇族學校を設立し同族の子弟を敎育することゝし之れが費用は同族側の義捐に仰ぐ筈なりと

●梁起鐸の第二回公判

國債報償金詐欺取財の被告人梁起鐸の第二回公判は昨日午前九時より京城地方裁判所第一號法廷に開かる係り官は前回と同じく被告人の辯護のため[illegible]容相氏出席し裁判長事實の審問を終り證據書類として大韓每日申報社に現存せる國債報償金に關する一切の書類及び國債報償金總會所に在る帳簿を提出せしめ且つ檢事の請求により證人としてベッセル、コールブラン、マーラン（佛人）ホームリンガー商會支配人を法庭に喚問するに決して閉廷したるが本日の被告人の陳述によれば彼れは國債報償金に關しては一切ベッセルの指揮によりて事務を處理したるものにして此の事件に關する責任者はベッセルなる如し而して右の證人の喚問に關しては京城理事官を經て當該國總領事に交渉する筈なりと云ふ

●玄暎運公判に付せらる

暴徒

暴徒關係の嫌疑にて警視廳に拘引せられたる玄暎運は京城地方裁判所に於て豫審中の所昨日詐欺取財の被告として公判に廻されたる由にて公判期日は本月十六日なりと

●拓殖會社の所管

東洋拓殖株式會社は日本にては大藏省の主管となり居るが韓國にては便宜上農商工部の主管とし商工局其事務を掌る事とせり

●拓殖補給の財源

政府は大博覽會に對し四十二年度に九十二萬圓、四十三年度に百五十八萬圓、夫れより四十六年迄年割額に從ひて支出する計畫なりしが今回愈よ延期に決し右の費目は全然不用に歸したるを以て四十二年度以降の財政計畫に於ては其費目の一部即ち一ケ年三十萬圓宛を東洋拓殖會社に補給する事に決定し之を豫算に計上する筈なり

●拓殖委員の農商工部參集

一昨日迄に人選を終り明日の官報を以て任命を發表さるべき東洋拓殖株式會社韓人側設立委員二十二名は今三日午前十二時一同農商工部に參集し趙農相より同會社創立の由來其の他同會社に關する談話及び川上書記官より渡日に關する注意を聞きたり

●松井局長の視察談（續）

自分は豫て地方に奉職せる日本人官吏が互に所管に從ひて離隔し其の間共同を欠ぎて一致を缺き甚しきは相反目するの傾向を生じ韓人其の虚に乘じて地方行政は統一を失ひつゝありとの噂を耳にしたる事ありて如斯は誠に憂ふ可き現象にして其の相互の折合の必要なるを思ふと共に實情果して然るや否やに付ては大いに注意せし所ありき然るに巡視したる地方にては更に斯る現象を認めず海州の如きは裁判所守備隊警察署共に相互の關係極めて圓滿にして最近に於ては郡守會議、警察署長會議等開催せられ各官廳長出席して相互の氣脉を通じ弊政の改善に努むるや極めて熱心にて將來此の地方の行政は頗る見るべきものあるに至るべきを認めたり、鎭南浦より平壤到る處警察官吏を會合し地方警察改善の急務なる事を懇說し民衆に對しては最も心切を旨とすべき事並に今日の警察官は日本に於けるソレと異なり其の事務極めて多く所謂万屋的に何事にも注意して一般人民の權利利益を保護し安寧秩序を維持せざる可らず然れども餘り熱心に過ぎて深入りをなすは却て不可なる場合あるべければ大に注意せざる可らず殊に日韓警察合併後は警察官が韓人の保護に厚くして日人の保護に渉きやの說あるも元來日韓警察合併の趣旨は日韓人の區別なく平等に此れを保護し又事務の敏活を圖らざる樣其の他警察官の資格として重要なる規律廉潔等の氣風を涵養し以て內外人民の信賴を受くる事に努むべき旨を說示せり黄海道の暴徒は一時は頗る優勢なりし如かりしも軍隊憲兵隊警察隊等相一致して鋭意此れが勤討に盡力せし結果今は陸上全く靜平に歸し只暴徒の餘類の海賊に變じたるものありてために海岸地方及び海上は稍々不穩なる如し本號は曩に平渡警視の在任中暴徒歸順の勸誘に力を致せしため統計上にも其の數他道に比すれば頗る多數にして殊に歸順者には嚴正なる訓示をなし歸順後の行動を監視し時々警察署又は駐在所に出頭せしめて訓誡を與へ其の取締行き屆きて成績良好なりとは豫て耳にしたる所なりしが今回の視察により果して其の實なる事を認めたり、各地にて人民を會せしむる場合は殊更に主としてクリスチャン又は私立學校の敎師等を來集せしめ海州の如きは聽衆二百餘名平壤は四百名餘りなるが何れの集會にも必ず觀察使の出席を求め自分の演說の後は隨行の趙書記官詳細に敷衍的所感を述べ觀察使の演說此れに次ぎ自分の演說は韓國通の[illegible]したれば演說の趣旨は遺憾なく貫徹するを得て民衆に多大の感動を與へたるが如し地方旅行の不便困難は人のよく口にする所にして自分も出發前より相當の覺悟にて蚊帳毛布等を用意したるも豫想せるが如き困難なく又甚しき不便を感ぜず載寧安岳にては郡衙に長逗にては駐在所に宿泊したる等前回の旅行に比すれば直接に實情を視る事を得て却て巡視の目的を達するに好都合なるを感じたり要するに地方旅行は中央に坐して想像するが如き困難不便なるものに非ず本年は全國何れの地方も農作好良にして近年稀なる豊年なる事は曩に聞き及びたる所なるが黄海平安の地方も實際に豊穰に見受けられ農民一般に喜色ありしは此の國のために祝すべきなり云々（終り）

●民長官選理由

既報の如く仁川民團議員會見委員は一昨日曾禰副統監に面接したり其際委員は副統監に向ひ民長官選令發布の理由を質問せしに對し副統監は其理由として（一）民團經費を節減すること（二）豫期の良民長を得る能はざる遺憾を除去すること（三）民長選擧に對する民間の黨爭を防ぐにあること等にして此外に些々たる一理由を述べてコリ新聞に發表するを見合せられたき旨を述べられたるが委員は尙は本令の撤廢若くは一部改正即ち同府令中官選となすことを得と改正されたしと要求せるに對し副統監は其希望として聽き置かんとの挨拶あり引續き數時間の談話を交換して一同引取りたるが副統監の口吻によりて察するに到底同府令を撤廢するは難きものゝ如かりしと

●副統監會見報告

仁川委員は昨日仁川民團役所に於て別項副統監會見の報告會を開き後議員の態度を決定する筈

●馬山線の開通

過日の暴風にて不通となりし三浪津より馬山に至る鐵道は其後鐵道管理局に於て鋭意復舊工事をなし居りしが愈よ本日午前六時より開通するに至り從來の通り列車の運轉をなすことゝせり

●鎭南浦の築港

鎭南浦安東縣方面視察中なりし西風商船仁川支店長は一昨夜歸仁したるが同氏の語る所に由れば鎭南浦築港問題は秋本理事官の斡旋にて既に統監府の承認を以て目下韓國政府に出願中なるが元來同港は港灣廣く加ふるに吃水頗る深く僅に三千屯の汽船にて解一隻を挾みて棧橋に横付になし得る良港なるも冬期中は流氷多き爲め入港汽船の荷揚に便を缺くを以て港灣の修築をなし以て汽船をして直に棧橋に横付になす計畫なれば仁川の築港よりは規模頗る小にして經費も亦百萬圓の豫算なりと云ふ

●沿岸航路と郵便物

統監府通信管理局は本年農商工部の許可を受け國庫の補助を受けて開始する韓南汽船會社の船舶及び北韓沿岸航路の汽船に郵便物無料搭載の希望あり農商工部へ此れが交渉をなしたる結果農商工部は右兩航路經營者に對し命令條項を追加して郵便物の無料運送をなさしむる事とすべしと云ふ

●內部官吏の笠冠廢止

韓國民は上下を通じて竹笠又は竹笠及び毛冠を頂き此の風俗は因襲の久しきに亘れるものなれども價格不廉にして普通のものにても十數圓に値し殊に室內にても此れを脫せざる習慣なれば執務上に不便尠からず內相は此れを廢して普通の帽子に改むるは經濟上にも將た執務上の便利にも得る所少からずとし一昨日內部官吏に訓諭して昨日より同部官吏は笠冠を廢せしむる事となせりと云ふ

●丸山前總監送別會

今回島根縣知事に轉任されたる韓國前警視總監丸山重俊氏は愈よ明日出發赴任さるゝに付我官民は合同して一昨日午後六時より日本人倶樂部に於て同氏の送別會を開催せり列席者百餘名にして石塚參與官發起人側を代表して送別の辭を述べ次で丸山前總監の答辭あり了て食堂を開き立食の饗あり宴中內部大臣宋秉畯氏乾杯をなし前總監の健康を祝し隨時退散したるは同九時過ぎなりし尙ほ宴中は軍樂隊の奏樂ありて興を添へ頗る盛會なりし

●大內栅瀨兩代議士歡迎會

當地有志者は本日午後六時より巴城館に於て目下來京中の衆議院議員大內暢三、同栅瀨軍之助の兩氏を招待し歡迎會を開く筈

●撰擧名簿の調製

京城居留民團役所にて調製中なる民團議員撰擧名簿は本日中に完成する筈なりと

●警備電話開通

晉州咸陽間に架設中の警備電話は陝川咸陽間の工事を了り去月三十一日より全州井邑間は本月一日より通話をなすに至れり

公人私人

●杉山憲兵少尉の出張 京城憲兵分隊附杉山少尉は加平、春川附近視察の爲め本日出發二週間位にして歸隊する筈なり

●憲兵本部員の視察 憲兵本部の松村少尉金正尉の兩氏は慶尙北道大邱より沿海地方視察の爲め本日出發すべし

▲長野晉（開城居留民總代） 一昨夜上京不知火旅館

▲兵藤定邦（鐵道驛技師） 一昨夜歸任

▲澁谷太吉（海州銀行支配人） 一昨夜大田へ向け出發

▲荒浪平次（東洋大學講師） 一昨夜出發

●近事片々

▲愼重 の態度とは能く軟化せる代議士の好で用る言語好辭令なれ共其實面黑からず

▲帝國議會が政府と衝突する場合には民黨側より愼重の態度を採る代議士時々現る

▲仁川 民間の議員諸氏の態度は[illegible]こは異るべし愼重の態度は全く愼重ならん

▲最後の勝利とは何を意味する乎無論民長官選令撤廢にあるべし然らば其斡旋必要

▲仁川 委員の副統監との面接は果して要領を得たりや其結果を公然發表せらるゝ乎

▲官選令に對する相當の理由ありしか將た御用紙が熱心に辯明せる處と異らざる乎

▲御用紙の述べたる如く自治の能力なしと云ひし乎豈夫面接では斯迄言はざるべし

▲然れ共官選に對する面黑き名理屈ありしか單純の問題に理屈の付けようもなし

▲愼重の態度是に重きを置き今後如何に目覺ましき行動あるやを刮目するの外なし

▲大博覽會も延期と決定したり金子會長尾崎市長等の遺憾は嘸こそと惻察するなり

▲氣遣はれたる列國の意嚮も米國大統領及獨逸皇帝の回答に依り稍々安堵すべき也

▲日本でこそ大問題なれ歐米列國の感じは左程にもなしさいやさほどに思やせぬ也

▲金允植も東京出發して歸韓の途に就けり好爺始ての渡航如何に日本を觀察せし乎

▲滯在數月韓太子優遇帝國民の眞意能く了解せしならん果して信賴の度を增せし乎

▲歸來兩宮に參して其見聞を具さに奏上せば更に日本の好意を諒せらるゝに至らん

▲太皇帝日本觀光を思ひ起たせ玉ふ時も早晩來るべしとは一般の想像する所にて候

▲京都大學總長も漸く決定すと前の文部大臣理學博士菊池大麓先生是なら大丈夫也

▲親任官の待遇を給ふ總長教授連も不服はあるまじ茲に始て京都大學も振起すべし

▲井上侯病危篤との事既に齢古稀を逾ぐ如何に躰軀壯なりと雖も或は回復期し難し

▲元老中最も壯健なりと云はる井上侯に此事有病軀を常に云はるゝ山縣侯却て强し

▲桑島將軍久方振りにて氣焔を吐く桂の財政整理を評して蟠角殺牛の嫌ありと云ふ

▲更に外交家を罵倒して足利義滿の如き奇略を弄するもの一人もなしと痛快を極む

▲辰丸事件の如き小事件の爲に排日の盛熾を[illegible]

●墮落女學生　名門の令嬢 家庭教師

「露をだに厭ふ大和の女郎花降るあめりかに袖を濡らさじ」と歌ふて西洋人の肌に觸るゝを拒みたる日本女子の意氣地今何處にかある、霜に凋み雨に濕ひつゝ路傍に咲き出る大和撫子の氣概今何處にある、娘子軍として西比利亞に遠征し、香港新嘉坡を股にかくるの淫賣婦、滿洲韓山をさまよふ阿嬢、腐れ女、此等は素と之れ目に一丁字なき下等社會の[illegible]

[illegible]り得たる廉を忌憚なく掲載し、尙ほ渠等が之によりて改悛後悔して其行を改むればよし、然らざれば更に追窮すべし

●西大將の令嬢(詳報)

本紙は曩きに窈窕たる若き婦人が西大將の令嬢なりと稱して濟津に浮浪し來り其所等愛等に汚名を流しつゝありし事の大要を報じ同時に右の婦人は斷じて西大將の令嬢にあらざる由を述べ置きしが今此の女について詳報を聞くを得たれば重複の點を顧みず左に掲ぐることゝせり濟津海岸通り新玉樓事森高彌三方の抱へ酌婦西川ヨシエ(三十)といわるは今を去る一ケ月前筑前若松より前借二十五圓にて雇ひ來りしものなるが此の女酌婦に似合はぬ學者にて從つて見識も高く客の自由にならぬ所より樓主も大に困じ果て何んとか處置を附けずはならぬと思ひ居りし折柄丁度ソコへ城津料理店の主人某が酌婦雇入のため來りしなり樓主はイッソ本人と相談の上其方へ鞍替へせしめんとヨシエに其の趣を語りたるにヨシエも納得したれば双方の主人は互に金錢の受授をなしサテ愈々翌日城津指して出發せんとする前夜肝心のヨシエは何れへか逃亡したれば主人は大に當惑し早速其の旨警察へ訴へ出でたり依つて警察署にては直ちに彼女の在家を探知し本署へ引致の上種々其の不心得を諭し前借金を如何にするかと訊問せしに彼女は至つて平氣にて自分は當地の松本理事官と懇意なれば其の方に縋りて前借金を返濟せんと考へソレにしても自分は紛れもなき西大將の娘なれば其のやうの不徳の行爲は敢てなさず又自分が身分ある名家の令嬢としてナゼに斯樣な淺ましき境遇にあるやを不思議に思召さるゝは尤もなれど此れにはダン〳〵仔細ありて一朝一夕に話しは出來ず唯自分が朝鮮にて酌婦奉公を嫌ふ譯は客の御伽をせずばならぬが厭許りで實は昨夜逃亡せし次第なりと申し述べしかば係官は兎も角も松本理事官の出張を乞ひしに理事官には其のやうな女は一向に知らずとの事にてスッカリ嘘が現はれしが何の道胡亂な女なれば警察署にては一時の知り合ひなる口入業大場國松方に引き下らしめたるにヨシエは又々逃亡し今に行衛不明なりといふ或る說には彼女の背後には同女を操る惡漢あり倶に〳〵不逞の行を爲し滿韓を股に掛けて懷を肥さん魂膽にはあらずやといふものありソレにしても名を騙られたる西大將の一家こそ氣の毒といふべし

●莫蓮花(一)

口の先では何んな立派なことを言つたとて何うせ朝鮮三界迄も出稼する女に碌なものはなく大概は色と金との二筋途で世を渡らんとするものなるが爰に又三面雜報を賑はすべき一人の莫連女こそ躍り出でたり女は愛知縣生れ野々山ブン(二十八)といふものなるが同人の經歷は丁度彼の白蓮花の主人公たる笹野ノブ(ハルは誤り)とよく酷似せるのみならずノブの曾て住み込し韓人及び關係せし男と偶然にも緣因を結ぶに至りしは實際不可思議にて殆んど第二の白蓮花ともいふを得べしサテブンは昨年三月國元を出でゝ一人飄然と龍山に來り同地旭橋通りの料理店太田キミ方の酌婦奉公となり毎晩客の席に侍りては金切り聲の節回しも至つて怪しげに喇叭節やらサノサ節を謡ひソレに酒をガブ〳〵飲みながら面白く可笑しく其の日を送りける中繁々と同亭に通ひ來るヒョツトコ男と熟くなり互に情を重ねし揚句はれ定まりの末は夫婦ぢや那の世迄の文句を並べ立つるやうになりしがサテ女は借金を返へす迄の辛抱がドウしても仕切れず其の年の八月といふに男と手に手を取り合ふて[illegible]舍芝居で見た櫻川忠兵衛を氣取り大田に驅け落ちしたはよきも頓で男の方で俄かに變心し男心と秋の空はチョイト這な寸法だよと云はぬ許りにある時女を捨てゝ何れへか立ち去りたるより女は非常に口惜しがり地團太踏那の薄情野郎奴がと立腹したるも今更ら何うする譯にも行かねば又々元の古巣なる龍山に舞ひ戻り女將に詫びて以前の通り酌婦奉公をなし居りしが併し何時迄も斯くて賤しき水商賣を爲し居りしとて此の先き何の見込もなく却つて世間の人より淫賣婦の酌婦のと後指差され出世の邪魔をすると身の爲めにはならざれば一日も早く堅氣の所に奉公せんものをと彼れ是れと奉公先を探し回りし末如何なる手蔓からかは知らねど近頃東洋拓殖會社のある歷々たる役目を帶びられし韓人某氏の周旋にて北署齋洞に住める呂集さかなん呼ぶ內閣書記官長の下女にと住み込みたり(つゞく)

●良心に恥ぢざるか

戰捷の餘榮に醉ひて近時我が軍人社會の風紀日に紊れ浮華淫靡の結果往々忌はしき汚名を世上に曝すものゝ間々新聞の三面雜報等に傳へらるゝはサテも慨はしき次第にこそ閑話休題扨韓國は韓南地方の或る守備隊に歷々の地位を保てる將官殿ありけるが此の將官殿身分の程も顧みず殊に其の部下にありては昨今の殘炎に總ての難苦を耐へ不便を忍び唯一意暴徒討伐の大任に身心をからし居るにも拘はらず如何に脳つた心根からさはいへ土地の藝妓に馴染を重ね勤務の隙に乘じては朝な夕なに其の藝妓の許に浮れ意馬心猿の狂ふに任せて今は有頂天の有樣なりとかいふ取り分け聞くだも忌はしきは其の馴染の藝妓といふは從來他に幾千代變らぬ紅情を契りし男ありといふを將官には此の二人の關係を耳にするや態と意地になりて右の藝妓に手を出し果ては表面上丈にても自分の方に靡きし所から昨今は恰かも白万の敵を殪し名譽の聯隊旗でも奪ひしかのやう得意の樣子なりとかさるにしても記者は其の將官の姓名も任地も判り居れど可成的諷刺的方法に依りて其の墮落を悔悟せしめたく又一方には一々其の非を曝露しなば一般軍人社會に對しての面汚しともなるべければ一體不得要領の嫌ひあれど玆には單に茫然と事の大要丈を掲げ置かんのみ

●乞食小屋は養育院

乞食といへど一概に目縫つたものにあらず取り分け之が親分の如きにいたりては稀に義俠な奴も居るものなり所は西小門外蓮曬洞の廣つ場の一隅に乞食小屋ありけるがソコには平素二十餘人の乞食住み居りてサモ賑々しく而も仲睦じく暮し居れるが其の中の親分といふが却々の義俠者にて世にも哀れなる不具廢疾者とか又は鰥寡孤獨のものを引き取りては感心にも世話をなし而して其の中の强健なるものには大人と小供との區別なく何等かの職業を周旋し病者又は廢疾のものには堪へ得る範圍に於て乞食を爲さしめ居れり殊に嘆賞すべきは平常一同を戒めて乞食はすれども一點惡事をするな古參者は敬へよと儼達し居れるが現に此の間の如きもあるチョンガーが近所の野菜畑に踏み入り密かに野菜を取りつゝある所を端なくも親方に見つかり手嚴しき處罰を加へられしとか兎の例ありしが乞食としては實際珍らしき性質の親方なり

●無情なる哉此漢子

或る所に我洞野次と云ふ男あり其職が職だけに下情に通じ居るは素よりのこと時に依りては新町の遊廓にも遊び馴染の二三人も拵へ又商家の女や何かにも關係して其生活の代に供することは珍しとせず人も之を許し居れるを以て我洞は益々圖に乘りて遊蕩頗々たるを以て之れが爲め僅かの報酬は毎月の生活費に不足するに至れること少からざれば之れではならぬと考へた末が本町の或る貿易商店の下女にお何といふがありて多少の貯へあるを思ひ出し此女をたらして以て遊蕩費の財源を得んと一策を講じたるに忽ちに成功せり我洞は玆に於て下女と共に或る所に世帶を持ち當座の間は夫婦然と睦じく暮らしたるも我洞の心は元々女が貯へし金を得ず夫婦の如くせしめんとの巧みより已を得ず夫婦の如くなりたるなれば種々の口實を設けては女の金を引出しては新町に至りて消費せしにぞ高が知れたる貯金のことゝて何日までかあらう筈なく數ヶ月の內には一文もなく遣ひ果したれば今度は衣類を七つ屋に曲るに至れり斯くする中に女の腹は次第に膨れ出しやかて產月となりて產み落したるは玉の樣なる男の子なりしも我洞は喜びもせざれば入籍もせず相變らず衣類を持出しては新町に通ふと云ふ始末なるに衣類も最早一枚もなくなるに至れり之を見たる我洞はモー好い潮時之れで切上るに若かずと數月前に一時の暇を得て鄕里に歸りて淫賣婦上り見た樣な妻を迎へ共に手を携へて此頃歸京したり女は此體を見て驚きもし恨みもしたけれど鄕里より來りし女は旣に入籍しありて如何ともし難く今は奇麗に緣を切るより外はなしと子供の引取方を談判せしも我洞は一向顧みず空嘯ひて取合ざりしかば女も觀念の臍を固め假令子供を引取りて呉れたとて斯る人間に任せた所で子か可哀想だと子供を抱き恨の淚を吞で我洞の內を立去りたるか之より故鄕に歸らんにも貯への金も衣類も我洞の爲めに取られ再び奉公せんには此子か邪魔となる如何したら宜いかと淚ながらに考へても好い考へも浮かばざれば兎に角何處でも子供を可愛がつて呉れる人の家に預けて奉公せんと思案中なりとの投書あり

●通譯官と稱する泥棒

一昨夜十時頃典洞にある自轉車屋に一人の韓人來り兵站所通譯官徐用と印刷したる名刺を差出し暫らく自轉車一輛を貸し呉れと云ひしかば店主も番頭も右の名刺を見て官名を有するものなれば別に怪しきものでもあるまいと兵站所通譯官に信を置き望みの儘に貸し與へたるに件の通譯官は忽ち自轉車に打乘り疾風の如く驅け出したまゝ待てど暮せど一向歸つて來ぬに騷ぎ出し彼是する中早や翌朝の二時となりたれば此に初めて泥棒に一杯喰されたりと所轄警察署に訴へ出たれば目下嚴探中なりと云ふ

●車夫と小切手

西部夜珠峴統戶不詳陳聖文(三九)は南大門通り二丁目タイガー印刷社北村梅次郎方へ車夫として雇はれ居たりしが一昨日突然解雇さるゝことゝなりしが後に端なく賃料の爭論を惹起し陳は同日南部警察署へ說諭方訴出たるが梅次郎の言ふ處は現金では少し差支ある處あるを以て第一銀行當座小切手を渡さんとの意向にて陳は現金でなくば受取らぬと云ふ問答なりしが其邊は如何なりしか明ならず多分本日結[illegible]

着すべしと

●阿片吸飲

西小門內漏ト洞十三統五戶淸國人孫時春(三〇)方にて阿片を吸ひつゝあるを巡廻の巡査之を見認め取押へたるが此者は倉洞統戶不詳孫呂春(三二)なるものにて警察に引致せんとせし時偶然入り來りし韓人あり此奴も怪しと取押へて糺問したるに阿片を所持し居る旨自白したり此者は倉洞十七統七戶朴致代(三四)と云ふものにて二人とも西部警察署へ引致さる

●溝に投糞

民團役所人夫明洞統戶不詳金壽甫(三〇)は一昨夜十時茶洞の溝渠に一荷の糞尿を投げ込みたるを巡査に認められ直に銅峴分署へ引致さる

●白川一座再度の乘込

本町座に於て人氣を得し白川一座は打揚げ後群山に赴き同地に於ても好評を博し今回又々本町座に乘り込み本日より初日を出すことゝせり初日藝題は「雨後の月」にて其役割は左の如し

堀內龍之助(田宮)令孃芳子(一井)堀內鐵齊(石卷)妾お金(今井)小林利之(葉山)醫學士原口(南鄕)遠藤勇(中川)小間使お勝(小泉)仲居お時(松本)藝妓小千代(堀江)倉田達哉(秋山)家主吉田平次郎(秋岡)石川三郎(佐藤)書生高木(喜多)幇間露八(島村)車夫熊藏(白川)

●新斜子黑紋羽織と各種縮緬兵兒帶　今回上野國桐生町大和屋吳服店にて發賣する新斜子黑紋附羽織地は輸入染料を以て化學的染色法を施したれば褪色の憂なく頗る體用品なり猶同店は上州織物の愛用を向上せしめんが爲に模範的製造に係る各種縮緬兵兒帶は糸質精選の結果從來の觀光縮緬に比し數倍の耐久力ありと云ふ詳細は本日の廣告欄を參照

富本半平の身上（七）

するとそうさ……夫りやア此前の頼みだから俺も懸命に骨を折つて見たが……小冬ナカ〳〵もんだからな……首をひねつてるのでイヽヤ其處に心配はいらない俺だつて素人おやア無し斯切出す迄には充分あたりが附てるからだと手前はグッと色男を氣取つて見せると……そうかそう事が運んでりや手前にイサロサはありやアしない夫れおちやア直ぐに聽ばうといふんでバタ〳〵と手を叩き女中一人呑み込みで女中に耳打ちをすると其女中め手前の顔を鳥渡見て妙な顔付を致しましたがヘイかしこまりましたといつて梯子段をトン〳〵と下へおり立つて參りました

暫時經つと例の小冬と文中の馴染が今晩ありーといふので座敷へ這入つて參りました手前はもう何といふ事は無く嬉しくツて堪らないサア姐さんズーッと此方へ來てれ座敷をはなれて呑氣にして下さいか何かフンダンに世辭を振りまいて一生懸命機嫌を取る其中に盃のやり取りが重なる男も女も大分酔が廻つて來ると小冬はソロ〳〵持前のバラガキを現はし妾ビールでなくツちやア飲めない事よなんかんと御託を並べ出す手前は惚れてる弱味が厶いますから左樣さビールもヲツだ……おやア夫れに仕樣と女中にそういつて取り寄せて貰いサアーッとコップをさす憚りさまと挨拶をしながら泡立つたやつをダーッと一息に飲み干して仕舞つてアヽすつきりとする……濟みませんが追ッ掛けてもう一ツ酌をして下さいなど又ナミ〳〵とついだやつを前同樣にグーッとあをるイヤもう其美事さつたらありませんれ諸口で日本酒をチビリ〳〵とやらずばかりといふもの空ビン行列が出來上りちまいました夫れと一所に手前の懷中が段々と下掬つて參るのですから心細らがす何程豪らうとも惚れた女がいふ事をきくさ思ふから左のみ苦にも致しませんでしたが小冬の仕打に一ツ氣になつて堪らない事があるのでムいます夫れは話の間々に帶の間から懐紙をぬき取りまして其三ツ折にしてある儘の隅の方を口にくはいて引ッ裂きモガ〳〵噛みしめては甘い工合に舌の先で丸めたヤツを天井見掛けて精一杯の力をこめてブーッと吹きつけるのでムいます癖には相違ありますまいが餘り宜い所作でもやアありません殊に此方は一生懸命になつて口説に掛つてる矢先に斯樣な眞似をされるのですから手前の身にすつて其の位氣になるか知れやあしません何でも天井はベタ一面此紙の彈丸がヘバリついて白くなつてしまいました。

●新聞料
●廣告料
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社